

茶病虫害防除情報

【第 7 号】

令和 6 年 4 月 30 日

鹿児島県経済連・肥料農薬課

良質夏茶の安定生産に向けた

一番茶後の病虫害防除対策

今年産一番茶は 3～4 月の気温が高く推移したため平年より早い生産になりました。一番茶の生産は遅場産地でも終盤になってきました。今年も厳しい市況になり、また肥料、燃料などの生産資材費の高騰もあり厳しい条件での生産になりましたが、皆様の努力・工夫で良質茶の生産をすすめられました。ゴールデンウィークになりましたが、茶業関係の皆様はなおご多忙中と存じます。今回は一番茶後の病虫害対策についてお知らせします。

◎ 病虫害の発生概要

一番茶期は今年も幸い病虫害の発生被害が殆どみられないようでした。しかし気温が上がリ、病原菌や害虫の活動も活発になり、発生が多くなる時期になりました。

ハマキムシ類は最近やや多くなってきています。病虫害防除所の 5 月の発生予察情報では、第 1 世代の発生量はチャノコカゲモンハマキ、チャハマキとも「並」、発生時期は「早い」予報です。早場産地では既に若齢幼虫期で、防除の適期になっています。

カンザリワダニの発生は一番茶前までは概ね「並」に経過し、その後一番茶期は雨天日が多かったため発生・被害は少ない状況のようです。県病虫害防除所の発生予察情報では「並」となっています。例年一番茶摘採後の今頃が発生のピークになり、その後は減少しますので、しばらく発生に注意が必要です。

ヒゲダニ類はこの数年多発生が続いていましたが、4 月下旬の調査では発生は少ない状況でした。これから晴天が続くと発生が多くなる恐れもありますので、しばらく注意が必要です。

発生が拡大しているチャトゲコジラミは県内の殆どの産地で寄生がみられており、一部地域の茶園では煤病発生もみられ、成虫が一番茶新芽に群生・乱舞する状況の園もみられています。成虫の発生が多く確認されている地域、園では一番茶後の防除に努めてください。

◎ 基本的防除対策

① ハマキムシ類の防除法（補完・臨機防除）

ハマキコン N 使用園は防除の必要はありません。ハマキ天敵利用防除園や薬剤防除園では出来れば地域のフェロモントラップによる予察を活用し、発蛾最盛日 16～22 日後に防除します。

防除適期の予想は、早場産地が 4 月下旬、中間・遅場産地が 5 月上旬頃になると思われませんが、上部新芽への発生は摘除されるので刈番茶摘採後頃を目処に防除してください。

② カンザリワダニの防除法（補完・臨機防除）

一番茶摘採後 5 月上旬頃が発生のピークになりますので、発生が多い園では刈番茶摘採後早めに防除します。天敵（カブリダニ類など）の働きが活発になる時期であるため天敵に影響の少ない薬剤を選びましょう。なお、発生は天敵の活動と梅雨の影響で 5 月中下旬頃には自然に減少しますので 5 月中旬以降の防除は必要ありません。

③ サビダニ類の防除法（臨機防除）

一番茶摘採後頃に急増し、摘採残葉の褐変黄化・萎縮・落葉などの被害を生じることがあります。茶園が黄褐色化するなどで発生に気づいたら早めに防除します。通常はかざりハダニと同時防除できますが、発生が多い場合は専用剤での防除が望ましいです。

④ チャトケコナジラミの防除法（補完防除）

一番茶摘採期頃に成虫が発生し、4月下～5月上旬頃が防除適期である若齢幼虫発生期になります。クシカバラムシの防除適期であるふ化最盛期と発生が概ね同調しますので、同時防除を狙った防除が可能です。裾葉・葉裏に十分薬液が懸るように散布します。

表 一番茶後の病害虫防除法

病害虫名	防除薬剤	希釈倍数	使用基準	使用上の留意事項
チャノコカクモンハマキ チャハマキ	チューンアップ 顆粒水和剤	2000 倍	前日 ー	<ul style="list-style-type: none"> これら BT 剤は若齢幼虫期散布の効果が高い。 天敵への影響は少ない。 有機栽培、米国輸出茶栽培に使用できる。
	ゼンターリ 顆粒水和剤	1000 倍	7 日前 ー	
	デルフィン 顆粒水和剤	1000 倍	前日 ー	
	サブリーナフロアブル	1000 倍	7 日前 ー	
	エスマルク DF	1000 倍	7 日前 ー	
	エクシレル SE	2000 倍	7 日前 1 回	
	サムコルフロアブル 10	2000 倍	3 日前 1 回	
	テップン液剤	1000 倍	3 日前 1 回	
	スピノエースフロアブル	2000～4000 倍	7 日前 2 回	
	アフーム乳剤	1000～2000 倍	7 日前 1 回	
アグリメック (チャノコカクモンハマキのみの登録)	1000 倍	7 日前 1 回		
カンザリハダニ	ダニサラハフロアブル	1000～2000 倍	7 日前 2 回	<ul style="list-style-type: none"> マイトコーネは遮光栽培では遮光開始 14 日前までに使用する。 同一系統薬剤の使用は年 1 回とする。
	ダニコンクフロアブル	2000～4000 倍	7 日前 1 回	
	マイトコーネフロアブル	1000 倍	※14 日前 1 回	
	スターマイトプラスフロアブル	1000 倍	14 日前 1 回	
	アグリメック	1000 倍	7 日前 1 回	
	サンクリスタル乳剤	300～600 倍	前日まで ー	
ミルベノック乳剤	1000 倍	7 日前 1 回	有機栽培に使用できる。	
サビダニ類	サンマイトフロアブル	1000～2000 倍	14 日前 2 回	有機栽培に使用できる。
	アグリメック	1000 倍	7 日前 1 回	
	スターマイトプラスフロアブル	1000 倍	14 日前 1 回	
	サンクリスタル乳剤	300～600 倍	前日 ー	
ミルベノック乳剤	1000 倍	7 日前 1 回		
チャトケコナジラミ	アプロートエースフロアブル (南・日・始・曾・肝・種)	1000 倍	14 日前 2 回	<ul style="list-style-type: none"> クシカバラムシと同時防除可。 400 L / 10a 散布する。
	アグリメック (北)	1000 倍	7 日前 1 回	

備考 ☆ 全…全地区 南…南薩 日…日置 北…北薩 始…始良 曾…曾於 肝…肝属 種…種子島



チャトゲコシラミ成虫蟻集状況



チャトゲコシラミ幼虫寄生状況



チャハマキ成虫 雌 雄



チャノコカクモンハマキ成虫 雌 雄



チャノコカクモンハマキ 卵塊



チャハマキ 激発被害園



チャノガサビダニ寄生状況



チャノガサビダニ被害葉